

香港やタイにソ連

の侵透工作さかん

(1)

(昭和51年7月18日 第3回)

事し、マレー半島とインド洋地域に勢力を拡げられるように、その中国式とカバボジアという一般的な立場を採そうとしている」とソ連の工作を激しく糾弾しようとした。

この九月上旬、東南アジアへの出張途次、四ヵ月ぶりに香港へ立ち寄りて認識を新たにしたことは、この四ヵ月間のうちに、香港の書店や露上の雑誌売場に、ソ連の対アシア進出にかかるするいわゆる軍事・戦略的出版があれだした。それらの出版物のなかには、半興味本位にソ連の軍事力や中ソ国境での防衛問題をとりあつかったものも多いが、いわば中国公認の商務印書館や三聯書店でも、「ソ修社会帝國主義」の罪状集で、でもいそな本が並び、司系列の『蘇聯問題集』(盤古出版社)が最近はよく売れしているところであった。

もとよりイギリス香港政府は、香港が中ソ抗争の場になることに極度に警戒的で、ソ連船が入港しても、最近では乗員の上陸さえ許さないほどだが、中国系紙は、手段を使って香港への浸透工作をおこなっていると非難している。

つい最近、对中国交正常化を経て、一種の中国ブームを経過したばかりのバンコクには、すでにソ連大使館や通商代表部があるだけに、状況はもっと熾烈である。やくも去る七月二十二日、ソ連大使館の機関放送「タイ人民の声」は、タイにおけるソ連の侵攻作戦を激しく非難し、「ソ連社長は、最も去る七月二十二日、アユタヤ王国は、ソ連政府および文

化貿易員などの名目で公然と大衆組織を破壊している」と述べた。さらに、「この連中はタイの軍事・外交情報を収集するほか、南

部国境一帯にまで偵察活動に従事するなど、タイの内政に干渉し、まことに宣伝をおこない、ラオスのビエンチャンには、この七月以来、ソ連人が大量に入つており、ラオスへのソ連の侵透工作はほぼ既了したといつてよいだ

る。

おおきな存在にな

りつつあるハノイ

中国とソ連の抗争

ますます激化する

中嶋嶺雄

るならば、ソ連と北ベトナム、半島を汽車で北上し、途中、最

も、シンガポールからバンコク

ン・ノル、反米の戦争は終った

が、この地域を舞台とする中ソの競争は、到底わりどうもない

（「ファー・イースタン・エコノミック・レビュー」一九七五年四月九日、五年半ぶりに劇的な帰

月二十五日）のである。去る九

月九日、五年半ぶりに劇的な帰

り、半島を汽車で北上し、途中、最

も、シンガポールからバンコク

ン・ノル、反米の戦争は終った

が、この地域を舞台とする中ソの競争は、到底わりどうもない

（「ファー・イースタン・エコノミック・レビュー」一九七五年四月九日、五年半ぶりに劇的な帰

り、半島を汽車で北上し、途中、最

も、シンガポールからバンコク

ン・ノル、反米の戦